石見銀山遺跡ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site　September 2008　NO.13

平成20年9月24日発行　第13号　　島根県・大田市教育委員会

【10月20日にフルオープンする石見銀山世界遺産センター】

>> Contents

page 2~3　石見銀山世界遺産センターフルオープン……島根県　目次謙一
ユネスコ憲章の精神
4~6　世界遺産登録1周年記念事業　記念シンポジウム・講演会……島根県　和田守弘・田原淳史
石州銀展……島根県　田原淳史
大田市(記念イベント)……大田市　長嶺康典
7~8　基礎調査研究事業から　(1)発掘調査……大田市　新川　隆
(2)石造物調査……島根県　守岡正司
(3)文献調査……島根県　目次謙一
9　整備事業から　町並みを歩く⑪……大田市　松浦　満・今田善寿
10　石見銀山遺跡保存管理委員会……島根県　佐々木慎二
11　石見銀山基金募金委員会……大田市　中村弘幸
12~13　石見銀山遺跡の今　(1)ゴールデンウィークの状況……島根県　引野佳幸・和田守弘
(2)大久保間歩の一般公開……大田市　長嶺康典
14　2007年度 石見銀山学講座
15　石見銀山のガイド活用のススメ……石見銀山ガイドの会　和上豊子
石見銀山遺跡調査活動等日誌抄
16　新任のあいさつ……大田市　小野康司・島根県　大矢敬子

石見銀山世界遺産センター フルオープン

10/20(月)

この度オープンします展示棟の一般の方の入館は午後1時からです。

島根県世界遺産室　目次　謙一

1．世界遺産センターのご紹介

いよいよこの秋、平成20年10月20日に、世界遺産石見銀山遺跡の拠点となる施設がフルオープンします。その名も石見銀山世界遺産センター。

平成19年7月にユネスコの世界遺産に登録されて以降、数多くの方々が訪れている石見銀山遺跡の総合案内窓口として、昨年10月には先行してガイダンス棟がオープンいたしました。木造瓦葺き平屋763㎡のガイダンス棟では、初めて訪れる方々を中心に、広範な石見銀山遺跡の概要と価値を分かりやすく情報提供してまいりました。あわせて、約400台の駐車場と路線バスの連携による「石見銀山パークアンドライド」の拠点としてもご利用いただいています。

今回のフルオープンにあたって新たに加わるのは、展示棟と収蔵体験棟の2つの施設です。展示棟では、石見銀山の歴史と技術を分かりやすく紹介する展示をご覧いただきながら、模型や映像を通して遺跡の価値を体感できることでしょう。また、石見銀山遺跡の調査研究の中心地として、その最新の成果も公開していきます。

収蔵体験棟では発掘調査の出土品を収蔵するとともに、石見銀山遺跡について体験学習を企画し、遺跡の価値を楽しみながら学べる様々なプログラムを実施していきます。

2.展示の内容

ガイダンス棟の入口すぐに広がるエントランスホール。地元産のヒノキの柱とマツの梁材で組み上げられた開放的な空間の一角から、展示空間へと入ってゆきます。その入口では、出迎えてくれる御取納丁銀の大きな銀製オブジェに驚かれることでしょう。

最初のコーナー「世界に影響を与えた石見銀山」では、石見銀山の銀が東アジアから世界へつながり、文化・経済の交流に役割を果たしていたことをご紹介します。

展示棟に入ってすぐは、石見銀山発見のエピソードを映像・音響・展示品で象徴的にまとめた空間です。石見銀山の歴史を紹介するコーナーでは、博多の商人神屋寿禎から奉行大久保長安に至るまで、時代の流れとともに石見銀山の変遷をご覧いただけます。また、石見銀山ゆかりの清水寺についても、展示品や解説でご紹介しています。

次は、鉱山のくらしと技術を紹介するコーナーです。数多くの人々が暮らし鉱山町が栄えていたという、最盛期の石見銀山（本谷地区）を復元した模型が見どころの一つです。狭い谷間に家が建ち並ぶさまが、大迫力で再現されています。展示室中央では、17世紀初めの精錬所建物を実物大で再現しており、鉱石から銀を取り出す精錬作業のようすをご覧いただけます。また、精錬作業を含め銀の貨幣ができるまでの一連の工程を、同スケールの模型3点を使って分りやすく解説しています。

続いては鉱山と石見銀山遺跡の調査研究を紹介するコーナーです。まずは大久保間歩内部の復元模型に入ってみてはいかがでしょうか。現地での型取りによって作られた内面の質感は、本物と見間違えるほどです。調査研究を紹介するパネルとともに、福石・永久2つの鉱床の坑道分布を再現した模型もじっくりご覧ください。ガイダンス棟側出口手前の文化的景観のコーナーでは、石見銀山遺跡の美しい映像を中心に構成しています。

▲鉱山とくらしコーナー（イメージ）

3．まとめ

以上、世界遺産センターの展示を中心にご紹介してきました。来館いただいた方々には、歴史や技術など多岐にわたる展示をご覧いただくことによって、石見銀山遺跡や鉱山について理解できるよう、いろいろな工夫をこらしています。

また、企画展示室では、石見銀山遺跡の調査研究成果をいちはやくご紹介していきます。情報ギャラリーは、「石見銀山周辺模型」を中心に、石見銀山の現地へ誘うガイダンス展示コーナーです。

展示棟と収蔵体験棟が揃い、フルオープンした石見銀山世界遺産センターへ、みなさまぜひ来館ください。

▲間歩体感コーナー（イメージ）

ユネスコ世界遺産

16世紀、石見銀山では灰吹法という精錬技法を導入することにより、大量の銀生産を可能にしました。このことが東西文化交流に大きな役割を果たしました。また、環境負荷の少ない生産システムや森林資源の計画的な管理により、豊かな自然環境と一体となった独自の文化的景観を作り出しました。

このような特徴を持つ石見銀山遺跡は2007年7月2日にニュージーランドで開催された国連教育科学文化機関（ユネスコ）の第31回世界遺産委員会において世界遺産に登録されました。その調査研究や情報発信はユネスコ憲章の精神に則って行われます。

ユネスコ憲章では「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とうたい、「文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果たさなければならない神聖な義務である」と宣言しています。

また、ユネスコの目的は「世界の諸人民に対し人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を推進することによって、平和及び安全に貢献すること」です。

このようなユネスコの精神や目的に沿って、島根県・大田市では石見銀山遺跡の調査研究・情報発信などの諸活動を行っていきます。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape Inscribed on the World Heritage List in 2007

石見銀山遺跡世界　遺産登録1周年

全国4会場でのイベント

島根県世界遺産室　和田　守弘・田原　淳史

平成19年7月2日に世界遺産に登録されて以降、石見銀山遺跡はその注目度が格段に増加し、各種メディアや出版物や販売物については登録前と比べものにならない勢いで発売されています。

また来訪者も登録後の1年間（平成19年7月から平成20年6月まで）では、登録前と比較して、ほぼ2倍の約91万人が訪れました。

そのように注目されている石見銀山遺跡ではありますが、来訪者の方々がその価値を十分理解しているとは未だ言えません。

そこで、「石見銀山遺跡とその文化的景観」が、世界遺産に登録されて1周年を迎えるのを記念して、島根県と大田市ではより多くの方にその価値を理解していただくために全国4会場でイベントを開催いたします。

先日開催した記念シンポジウムについての概要報告と、その他のイベントについて開催予定をお知らせいたします。

▲パネルディスカッション

▲会場に設置した石見銀山コーナー

1．記念シンポジウム

7月19日（土）に東京都江戸東京博物館の大ホールにおいて開催した記念シンポジウムは、約400人に参加していただきました。

まず、世界遺産推薦書に添付した映像を上映し、つづいて石川県立歴史博物館館長の脇田晴子氏に「世界経済史の中の石見銀山」というテーマで基調講演をいただき、東京大学大学院教授の村井章介氏、石見銀山資料館理事長の中村俊郎氏、大田市教育部長の大國晴雄氏を加えた4名のパネリストとNHK解説員の毛利和雄氏をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。

脇田氏の基調講演では、石見銀山の発見から灰吹き法の導入、そして石見銀山が欧州のアジアを植民地化しようとする危機を乗り越えて銀鉱山として花開き、日本の歴史経済を動かして国際情勢に影響を与えたという内容を紹介していただきました。

パネルディスカッションでは、まず毛利氏から近年の世界遺産の状況の説明があり、村井氏にアジアでの銀の流通について、中村氏と大國氏に地元の民間と行政の立場から石見銀山遺跡の価値についてお話いただきました。

議論の最後には、石見銀山遺跡の今後課題や地域のあり方として、脇田氏からは石見銀山をより多くの方に知ってもらうために資料の展示などこれまでの研究発表をして、観光地化することなく今のままの姿を守ること。村井氏からは石見銀山は一見して分かるものがなく歴史に対しての想像力が必要となるため、「教育」と「導き」をうまく機能させて世界遺産として認識を深めてもらうこと。中村氏からは地元では石見銀山へ愛情をもって住む喜びを感じており、石見銀山を次世代へ引きつぐ必要があること。大國氏からは石見銀山が日本の文化財の保全保護モデルとなっていくことなどが提言されました。

2．記念講演

このシンポジウムの開催を皮切りに、8月2日に同じく江戸東京博物館で講演会を開催しました。

引き続き10月4日には兵庫県立考古博物館で座談会を、11月23日に千葉県立中央博物館、平成21年1月17日に沖縄県立博物館・美術館で講演会を開催します。

▲脇田晴子氏による基調講演

石州銀展

島根県世界遺産室　田原　淳史

▲石州銀イベント

◀キーホルダー

島根県教育委員会と島根県立古代出雲歴史博物館では世界遺産登録1周年を記念して『石州銀展』を開催しました。この展示会は、石見銀山で産出された銀で作られたとされる貨幣～貨幣の収集界では「古丁銀」とよばれています～を多くの方に見ていただこうと企画したものです。展示では、これまでに島根県が調査研究を進めていくために購入したものや、個人の収集家によって集められ、この度、島根県が寄託を受けることになった古丁銀に加え、重さ約30kgの銀のインゴットなども並べられました。また7月5日には、展示資料を学芸員が解説する展示解説、キーホルダー作りや銀のインゴットに触るといったワークショップなども開催するなど、期間中多くの方に銀の世界を楽しんでいただきました。

大田市内でも様々な記念イベントが開催されました。

大田市石見銀山課　長嶺　康典

7月2日に市内の小･中学校では、石見銀山にちなんだ特別給食で世界遺産登録1周年を祝いました。この日のメニューは、「芋代官ごはん」、「トビウオの銀山焼」、「やまぶき汁」とデザートに「紅白大福」が付きました。(写真)

この日、大田三中(水上町)では、竹腰創一大田市長を迎えて全校生徒40人で特別メニューを味わいました。竹腰市長は、挨拶の中で生徒たちに、石見銀山が環境に優しい遺産であることを伝え、これからも皆で遺跡の保全に取り組むことを再確認しました。

▲登録1周年を記念した給食会(大田三中)

また、2日は市の施設である龍源寺間歩、重要文化財熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家の3施設の無料開放が行われ、石見銀山資料館も協賛として無料開放と特別展示が行われました。当日は天候にも恵まれ、熊谷家では約480人の来訪者があり町並み保存地区は賑わいました。

世界遺産登録1周年記念 第8回クリーン銀山

7月6日(日)、大森町と温泉津町沖泊、仁摩町鞆ケ浦の3会場でボランティアによる清掃活動が行われました。当日は、「大森町文化財保存会」が主催する大森町内の史跡一斉清掃活動が計画されており、これに併せて石見銀山維持・保全活動連絡会議が登録1周年を記念して市内3会場でクリーン銀山を開催しました。

大森町では110人の参加者が、銀山公園や銀山川沿いの遊歩道、県道沿いの待避所などに分かれて草刈りやゴミ拾いに精を出し、軽トラック9台分の雑草を処分しました。

沖泊と鞆ケ浦では、それぞれ20人と30人の参加者が港湾部分の草刈りと漂着ゴミの回収に汗を流しました。

また、今回はクリーン銀山に併せ、日本郵便グループのメンバー70人が独自のボランティア活動として、重要文化財熊谷家、武家屋敷旧河島家や石見銀山世界遺産センター進入路で草刈りを行いました。

昨年の世界遺産登録後は、地域住民や文化財保護団体の保全活動のほか、こうした企業・団体のボランティア活動が盛んになり、遺産の保全活動がより活発になることが期待されます。

▲銀山公園での作業風景(大森町)

基礎調査研究事業から

(1)発掘調査

大田市石見銀山課　新川　隆

発掘調査ではこれまでと同様銀山柵内と大森地区で、遺跡の実態を把握する為の調査を行いました。

(1) 安原谷地区

銀山柵内では昨年度から新たに安原谷地区の調査に着手しました。安原谷は釜屋間歩付近で本谷と合流する谷で、銀山最盛期に活躍した安原備中(伝兵衛)にちなんで名付けられています。谷には安原備中の墓所や霊所も存在しています。

今回の調査は谷の入口付近で伝安原備中霊所跡下の平坦地で行いました。検出された遺構は製錬用の炉跡と炉跡を粘土で埋めた遺構や、建物礎石・方形の水溜め土坑などです。水溜土坑内からはユリカスと呼ばれる選鉱カスが出土しており、選鉱用の水溜めだったと思われます。このことは同じ敷地内で選鉱から製錬までの作業が行われていたことを示しています。同様の遺構は本谷の調査区からも見つかっており、本谷周辺では一連の作業を同じ敷地内で行うことが一般的であったと考えられます。この他、釜屋間歩横にある岩盤加工遺構の2段目は選鉱用の作業場と推定されており、特定の作業に特化した建物も存在していたことが判明しています。

今回確認された遺構は、出土遺物から17世紀初頭から17世紀後半のものと推定されますが、本谷の遺構とほぼ同じ頃で、同時期に稼業していたと考えられます。また、出土遺物には織部焼の向付など茶席で使われる器も含まれており、付近の居住者の中には茶の湯を嗜むなど文化レベルの高い生活をしていた人物がいたことになります。

調査と併行して調査区背後にある岩盤加工遺構と伝安原備中霊所の階段遺構についても苔や雑草を取り除き、遺構の顕在化も行いました。その結果、岩盤加工遺構と遺構を検出した面は同時性が高いことが確認され、17世紀初頭に掘削されたものと考えられます。階段遺構は保存状態が良く、鑿痕が明瞭に観察できます。さらに両側には小穴が開けられていることも確認され、柵・手すりといった工作物の痕跡と推測されます。

今回の調査では、安原谷を含む本谷周辺の様相の一端を明らかとすることができましたが、岩盤加工遺構や階段遺構の比較検討など新たな課題も多く残されました。

(2) 大森地区

大森地区内では柳原家(県指定史跡)の解体修理に伴い、地下遺構の確認と、土地利用の変遷を明らかにすることを目的にトレンチ調査を行いました。

建物の解体後、床下や土間面を中心に調査を行い、2面の遺構面を検出しました。上層の遺構面では2本のトレンチで炭化物層が確認され、大森の町の3分の2以上が焼失したとされる寛政12(1800)年の大火の痕跡と推定されています。ただ、炭化物層は調査区全体には広がっていないため、火事による類焼は建物全体に及んだものではなく、通りに面した側のみが焼失したと考えられます。また、解体前の建物では板間であった台所部分では、粘土を貼ったタタキ面が検出され、以前は土間であったことが確認されました。これらのことから、現存の建物は、寛政の大火後の建築で、後に改築等が行われ、台所部分に床を設けたと考えられます。さらに、炭化物層内からはいぶし瓦も出土しており、大火で焼失した建物はすでに瓦葺きだったと推測されます。

また、大火面を確認した上層遺構面のさらに下層でも、礎石を伴う遺構面を確認し、大火で焼失した建物以前にも建物が建てられていたことが判明しました。

▲安原谷の調査区・岩盤加工遺構・階段遺構

▲柳原家調査状況

(2)石造物調査

島根県世界遺産室
守岡　正司

石造物調査は石造物を通じて石見銀山遺跡の変遷を明らかにすることを目的にしています。

平成17年度からは大田市温泉津町地内で調査を行ってきました。温泉津地区の所在調査（分布調査）を受け、平成18年度からは比較的古い石造物が確認された西念寺で調査を行っています。

▶西念寺石造物

平成18,19年度の調査では、立正大学池上悟教授などの協力を得て、実測や写真撮影を行いました。歴代住持墓地では18世紀前半から20世紀前半の約200年間に及ぶ変遷を明らかにしました。また、「江戸」や「下総」で亡くなった僧侶の墓標も含まれ、広域交流を行っていることがわかりました。

廻船問屋の墓地では、地元産福光石が多い中、他の地域から持ち込まれた花崗岩製品もありました。供養対象者の経済的・社会的地位を反映している可能性もあり、有力町人層の墓所のあり方の一端が判明しました。

本堂周辺には斜面の岩盤を掘り込んだ岩窟墓地が存在しています。岩窟墓地は温泉津地区の寺院境内に特徴的な様相です。

特徴的な墓標としては明治期の陶器製墓標や花崗岩製墓標があり、今後、分布や時期について究明し、その位置付けを行っていく必要があります。

石造物調査は文献調査と共同して進めており、温泉津地域の新たな事実が判明するかもしれません。

◀西念寺墓地

(3)文献調査

島根県世界遺産室
目次　謙一

石見銀山や日本銀に関する古文書・文献（史料）の調査のうち、今回は福岡県下での史料調査についてご紹介します。

有明海に面した大牟田市内で、石見銀山関連の史料がある家に伝来し、まとまって残されていました。調査の結果、これらのほとんどが未調査のものだと判明しています。未知の史料が新たに発見されることはめったになく、貴重な機会となりました。

とりわけ古い史料は、毛利氏が石見銀山を支配した時期のものです。史料が伝来した家の先祖の武士は、鉱山の守り神として信仰を集めた山神社と関わりを持っていました関係からか、毛利氏当主の輝元や石見銀山を治めた家臣の佐世元嘉へ贈り物をし、礼状を受け取っています。毛利氏支配時期の史料が数少ない現状では、これらは当時の石見銀山の様相をうかがい知る重要な史料と言えるでしょう。

毛利氏との関係をより直接物語るのは、孔雀文様を刺繍した陣羽織です。孔雀の文様は緑色の地に青と紅を主に鮮やかに表された見事なものであり、前面に2か所・背面中央に1か所施されています。この陣羽織は、先の毛利輝元の祖父元就より下賜されたと伝えられており、袋に収められて代々受け継がれてきました。

現在、史料や陣羽織は所有者の方から石見銀山資料館へ預けられ、約400年ぶりに里帰りしています。今後の調査研究の成果が期待されます。

◀▲孔雀文様の陣羽織

町並みを歩く 11 ～修理の現場から～

大森銀山地区

大田市石見銀山課　松浦　満

高場家主屋　明治初期以前の建築（推定）

大森町昭和区の街道の西側にあり、重要文化財熊谷家住宅の斜向かいにある町屋です。現所有者は戦後に転居してきたため、それ以前の建築状況は詳しく伝わっていませんが、垂木などが和釘で留めてあることが確認されたことから、明治初期以前と推定されます。

正面左手は本2階で下屋が設けられ、正面右手は2階の大壁が手前に張り出して総2階に庇がつくなど、特異な形が見て取れます。また、2階外壁の両端に袖壁を設け、軒裏を塗り篭めるなど、火災に対する備えを施しています。

近年、正面の下屋が下がりつつあったため、瓦の葺き替えと構造補強を行いました。また、屋根の色彩を周囲と合わせるため、大屋根の葺き替えと妻壁の補修、正面の建具の復元や調整を行いました。

▲〈修理前〉

〈修理後〉

温泉津地区

大田市石見銀山課　今田　善寿

森田家主屋

温泉津地区の湯町にあり、温泉にいたる街道に北面している木造総2階建の町屋型住宅です。

建築年代を特定する史料は残っていませんが、所有者からの聞き取りでは“大正11年には存在している”とのことでした。

建物は一階を店舗として、2階を住居として利用されていました。店舗は当初漢方の薬屋を開業しており、大正中期頃から時計屋、戦後に建物の一部をパチンコ屋として貸していました。また、修理中には、床下から福光石で造られた“芋釜”（貯蔵庫）が見つかっており、生活の工夫がうかがえます。

外観からでは分かりにくいですが、建物の構造材は、そのほとんどが転用材で構成されており、今回の修理では構造補強・腐朽材の取替え、瓦の葺替え、建具の交換等を行いました。

福光石製の「芋釜」

▲〈修理前〉　〈修理後〉

石見銀山遺跡保存管理委員会について

島根県世界遺産室　佐々木慎二

第1回石見銀山遺跡保存管理委員会が、5月29日に松江市で開催されました。

この委員会は、石見銀山遺跡を適切に保存管理し、その価値を永く後世に伝えていくことを目的として、島根県と大田市が共同で設置しました。また、ユネスコに提出した世界遺産登録推薦書の中でも、その設置をうたっていたものです。

▲会議の様子

委員会では、遺跡の保存管理に関連する諸事業の総合調整や遺跡の保存管理計画の進行管理等を行います。委員は、県の関係部局の次長6名及び市の関係部局の部長5名の合計11名ですが、今回は初めての開催ということもあり、県の藤原教育長も出席し、会議の冒頭で県と市の連携の重要性等について述べました。

最初に、保存管理委員会の設置目的及び所掌事務、遺跡の保存管理における県と市の役割分担等を改めて確認しました。

次に、石見銀山遺跡の保存管理についてユネスコ世界遺産委員会から勧告された事項や、遺跡の保存管理及び整備活用における具体的な課題の説明がありました。

さらに、農林・土木・観光・文化財等の分野で今年度に県及び市で実施される石見銀山関連の諸事業に係る説明及び質疑が行われました。中でも、遺跡内における新たな交通システムの構築については、多くの意見が交わされました。

今後は世界遺産に義務づけられている資産の経過観察（モニタリング）等も取り上げ、毎年2回程度開催していく予定です。

▲あいさつする藤原教育長

世界遺産石見銀山遺跡を未来へ継承するために

石見銀山基金募金委員会発足

大田市石見銀山課　中村　弘幸

今年3月に募集を開始した、「石見銀山基金」。これまで県内外から、1,500万円をこえる募金が寄せられています。

同基金は、石見銀山遺跡を適正に保全・活用し、「世界の、そして人類の宝」として後世に引き継ぐための事業など、官民協働の資金として積み立てるものです。

募金活動期間は、平成25年3月までの5年間で、総額3億円（島根県・大田市の積立分を含む）を目標としています。

お寄せいただいた寄附金は、住民団体等が実施する保全・活用活動（保全・活用6つの柱）等への助成などに充てられ、有効に活用されます。

同基金への寄附について、また概要等につきましては、石見銀山基金募金委員会事務局（大田商工会議所内。下段）までお問い合わせください。多くの皆様方の温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

保全・活用6つの柱

▷遺跡の維持・保全活動

民間団体等が世界遺産エリア内において実施する遺跡及び景観の維持保全活動

▷文化財等の修理・修景活動

老朽化等により倒壊の恐れ、あるいは景観阻害を生じている建築物等で所有者だけでは実施困難な修理・修景活動

▷調査・研究活動

民間団体等が実施する石見銀山遺跡に関する学術的調査・研究活動

▷情報発信活動

石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神の周知、住民及び来訪者などへの啓発活動

▷伝統文化の保存・振興活動

石見銀山に由来する伝統文化などの保存・振興活動

▷環境型交通システムの整備

パーク＆ライドシステムを中心に運営する石見銀山の交通システムを環境対応型として整備・運営

石見銀山基金

～世界遺産石見銀山遺跡の保全・活用にご協力を！～

栄華を誇った石見銀山の象徴でもある、この御取納丁銀の輝きのように、
石見銀山が往時のにぎわいをふたたび取り戻し、
また、「世界の、そして人類の宝」として後世に
引き継がれますよう、この基金を有効に活用します。

◎募　集

基金は以下の目的に活用します。
◎遺跡の維持・保全活動
◎文化財等の修理・修景活動
◎調査・研究活動
◎情報発信活動
◎伝統文化の保存・振興活動
◎環境型交通システムの整備

－寄金の方法－

●ご寄附をお願いする金額
◎法人：1口　10,000円
◎個人：1口　1,000円
※基金の趣旨をご理解いただき、
なにとぞ御協力のご御附をお願いいたします。
●ご寄附の申込方法
ご寄附をいただける方は、
ファックスされた封筒にて、下記「石見銀山基金募金委員会事務局」まで
お申し込みをお願いいたします。
※募金箱（下記の場所に「募金箱」を設置しておりますので）
大田商工会議所、銀の道資工舎、大田市役所（温泉津・仁摩支所）、
石見銀山世界遺産センター、福原中間駅、
育石家住宅、大田市民先センター、市内各郵便局は
●ご寄附のご入金方法
「寄附申込書」を受領した後、大田市役所より「納付書」をお送りいたしますので、
それにより指定の金融機関からご入金をお願いいたします。
●税法上の優遇措置
本寄附は大田市への寄附となります。法人の場合は全額損金算入、個人及び組入事業主の場合は
寄附金控除（寄附額が5,000円を超えた場合）の対象となります。
（大田市から発行する所定の領収書をもって、税務申告の手続きが必要となります）

◎詳細については下記までお問い合せください。
（お問合せ先）石見銀山基金募金委員会事務局（大田商工会議所内）
〒694-0064　島根県大田市大田町大田イ 169－1
TEL 0854-82-0771　FAX 0854-82-2993

石見銀山基金募金委員会

IWAMI GINZAN SILVER MINE

石見銀山 WORLD HERITAGE

問い合わせ

大田商工会議所内　石見銀山基金募金委員会事務局
（TEL0854－82－0771 ／ FAX0854－82－2993）
http://www.ohdacci.com/

石見銀山遺跡の今

ゴールデンウィークの状況

島根県世界遺産室
引野　佳幸・和田　守弘

石見銀山遺跡では、世界遺産登録されてから初めてのゴールデンウィーク（4月26日から5月6日までの11日間）を迎え、県内外から多くの来訪者が訪れてたいへん賑わいました。

この期間中の石見銀山への入込客数は、昨年の同時期より3万6千人も多い、過去最高の8万8千人を数え、改めて世界遺産登録効果の大きさを実感しました。

地元大田市では、駐車場への誘導や、路線バスの乗降の案内、渋滞・観光情報の発信、臨時の休憩所の設置など、受入体制を整えました。

とりわけ多くの入込が予想されたゴールデンウィーク後半（5月3日から5月6日までの4日間）には、既設の400台の駐車場に加えて、大田市が500台の臨時駐車場を大田市仁摩町に確保し石見銀山までのシャトルバスを運行しました。

石見銀山周辺の駐車場では、連日朝から満車となり、シャトルバスについてもたくさんの方が利用しました。駐車場に入ろうとする車の渋滞や、シャトルバスを待つ方々の行列も生じましたが、市職員や地元「お助け会」の方々による懇切丁寧、臨機応変な対応により、来訪者から感心したとのご意見もいただくなど、概ね円滑な受け入れができたのではないかと思います。

▲新緑の中を散策する人々

また、このゴールデンウィークを含む約1ヶ月間（4月26日から5月31日まで）に「歩く観光」を前面に打ち出し、銀山地区を走る路線バスを運休する試行が行われました。

今回の試行では、急激に増加した観光客を運ぶ路線バスから発生する騒音や排気ガス、振動が地元住民の日常生活に支障を来たす状況となったのを受け、銀山公園から龍源寺間歩までを結ぶ約2.3km間の路線バスを運休し、来訪者に歩いて観光してもらいました。

この試行に伴い、龍源寺間歩への入場者が減るのではとの懸念もありましたが、結果的には、ゴールデンウィーク期間中、昨年より13,000人も多い29,925人が来訪しました。特に連休中日となった5月4日には過去最高の6,693人が入場しました。

今回の試行について、来訪者からの苦情や混乱等も予想されましたが、大きな混乱もなく、小さな子どもからお年寄りまで実に多くの方が、新緑を満喫しながら歩いて観光していただけたということで、概ね歩く観光への理解を得られたのではないかと思います。

▲大勢の観光客で賑わう龍源寺間歩

また、期間中は天候に恵まれたこともありますが、普段路線バスが走っている時にはほとんど訪れる人がいなかった、遊歩道沿いの墓所や、精錬所跡、寺社（跡）などの史跡に立ち寄る姿が多く見られたことや、路線バスの通行を気にせずゆっくりと安心して散策していただくことができたという点で、成果があったと思います。

ただ、その一方で、障害のある方や高齢者など、長距離の歩行が困難な方への対応や雨天時の対応については今後の課題として残りました。

今回の試行の結果も踏まえて、今年の秋からの「歩く観光」への本格実施に向け、さらに検討が進められています。

昨年の「ユネスコ世界遺産委員会」の審議では、「自然との共生」が登録の鍵となりましたが、こうした「遺跡と自然、人々の調和を図る“自然との共生”」という価値を今後も守り伝えていくために「歩く観光」を基本とした「新たな石見銀山スタイル」を確立し、持続可能な観光客の受け入れ態勢を築いていくことが必要です。

大久保間歩の一般（限定）公開始まる！

大田市では、平成20年3月末までの市民を対象とした「実験公開」の結果を経て、平成20年4月26日（土）から一般（限定）公開を開始しました。

大田市石見銀山課　長嶺　康典

公開日初日の4月26日は、大型連休前で参加者も40名とやや少なめでしたが、地元の「水上地区まちづくり推進協議会」のご協力により、金生坑前広場で歓迎のセレモニーが開催されました。歓迎セレモニーは、大田三中吹奏楽部の演奏の中、協議会会員の手作りによる紅白餅と瓦粘土製コースターを高山小学校児童の手により参加者全員に手渡されました。参加者は思いもよらない歓迎とプレゼントに感激し、児童と握手をして応えていました。

一般公開は、3月から11月の週3日（金、土、日）と祝日に行い、午前、午後それぞれ2回の公開です。1組20名以内のツアーが「石見銀山ガイドの会」の案内で本谷口から釜屋間歩までのコースを散策します。

大型連休中は、遠く関東地方や九州地方から約600名の参加者がありました。参加者からは大久保間歩の規模や坑内の暗さに感嘆の声が上り、ノミと鎚の手掘りの跡に当時に思いを馳せていました。

問い合わせ
(株)石見観光内大久保間歩予約センター
TEL(0854)84－0750

▲金生坑前で開催された歓迎セレモニー

◀大久保間歩坑内一般公開の様子

2007年度 石見銀山学講座

平成19年12月から平成20年3月にかけて、石見銀山遺跡を未来へ引く継ぐために、石見銀山協働会議では「石見銀山学」を開講しました。遺跡とともに暮らしていくには、遺跡に対する理解を深めていくことが大切で、学習の機会を作っていきたいと考えております。

講座の内容についてはホームページで公開しています。(http://www.iwamigin.jp/ohda/)

●第1回講座　石見銀山学開講記念　公開フォーラム

平成19年12月22日(土)　会場：あすてらす

「世界文化遺産登録とその後のまちづくりのあり方」　講演：西村　幸夫氏(東京大学大学院教授)

パネルディスカッション：「世界遺産としての地域づくり」

パネラー　平田　明子氏(ひらた蓬の会)　吉田　利江氏(財団法人鉄の歴史村地域振興事業団研究員)　石橋　哲一郎氏(鞆の銀蔵)

コメンテーター　西村　幸夫氏　コーディネータ　景山　邦人氏(石見銀山学実行委員　NPOしまね歴史文化ネットワークもくもく理事長)

●第2回講座

平成20年1月26日(土)　会場：石見銀山世界遺産センター

「江戸時代後期の大森町と代官所」

講師：小林　准士氏(島根大学准教授)

「石見銀山遺跡周辺の無形文化」

講師：多田　房明氏(大田市立長久小学校教頭)

●第3回講座

平成20年2月16日(土)

会場：石見銀山世界遺産センター

「考古学から見た石見銀山遺跡・「銀山町」について」

講師：田中　義昭氏(元島根大学教授)

「石見銀山と安芸厳島」　講師：本多　博之氏(広島大学大学院准教授)

●第4回講座

平成20年3月8日(土)　会場：石見銀山世界遺産センター

「石見銀山における森林資源の利用と管理」　講師：仲野　義文氏(石見銀山資料館館長)

「石見銀山の植生」　講師：井上　雅仁氏(三瓶自然館学芸員)

●第5回講座　公開フォーラム

平成20年3月22日(土)　会場：あすてらす

「世界をかける石見銀」　講師：村井　章介氏(東京大学大学院教授)

「石見銀山学がめざすもの」

パネラー　本多　博之氏(広島大学大学院准教授)　伊藤　和則氏(国際啄木学会　理事)

仲野　義文氏(石見銀山資料館館長)

コメンテーター　村井　章介氏(東京大学大学院教授)　コーディネーター　大國　晴雄(大田市教育委員会教育部長)

石見銀山の魅力を120%満喫　ガイド活用のススメ

石見銀山ガイドの会会長　和上　豊子

石見銀山では、地元のガイド団体「石見銀山ガイドの会」のメンバーが、その魅力を多くの皆様にご紹介するために日々活動しています。時として「世界遺産としての価値が分かりづらい」とも指摘される石見銀山ですが、道端の小さな史跡一つとってみても実は深い歴史や文化が秘められているのです。

石見銀山遺跡を120%満喫するために、ぜひガイドをご活用ください。

以下、当会のガイドサービスを2つ紹介します。これらはいずれも**無料**です。

★Let's Walk!! 龍源寺間歩

銀山公園からスタートし、龍源寺間歩まで、ガイドの解説を聞きながら歩くミニツアーです。徒歩ならではの“目と足と心で味わう”石見銀山をご堪能いただけます。
四季折々の風景もゆったり楽しめます。

定員20名

催行／1日2回　出発時間／10時00分・13時30分

集合及び出発地点／銀山公園内 大田市観光協会の建物前

所要時間／往復約2時間30分

※参加は当日受付します。途中からツアーを離れての自由行動もOKです。

★龍源寺間歩スポットガイド

龍源寺間歩入口付近に、ガイドの会のメンバーが『スポットガイド』(定点ガイド)として待機しています。ご希望の方に龍源寺間歩の概要や石見銀山全体の歴史などについてお話します。ちょっとしたご質問でも歓迎いたしますので、お気軽に声をかけてください。

日時／毎日
9時30分～16時

上記についての問い合わせは

石見銀山ガイドの会　電話 0854・89・0120　ファクス 0854・89・0706

ホームページ http://iwamiginzan-guide.jp/　※上記を除く通常のツアーについては有料にてガイドを行っております。

石見銀山遺跡調査活動等日誌抄

平成19年11月1日～平成20年3月31日

11/8	県)宅野泉家・藤間家文書調査(於:泉家・藤間家　文献調査団)
11/11	県市)世界遺産登録記念式典開催「石見銀山遺跡とその文化的景観」(於:あすてらす)
11/17・18	市)銀の道ウォーク
11/20	県市)第8回石見銀山遺跡調査整備委員会開催(於:あすてらす)
11/21	県市)科学調査部会開催(於:世界遺産センター)
11/24	市)龍源寺間歩入場者100万人(平成元年開場)
11/24・25	市)銀の道ウォーク
12/4	市)重伝建大森銀山地区の追加選定の告示(文部科学省告示第140号)
12/12・13	市)文化庁記念物課市原富士夫調査官現地指導
12/22	民市)石見銀山学講座2007 第1回
1/16ほか	県市)石造物分布調査(於:大田市温泉津町)
1/22	県)高橋家文書調査(於:高橋家　文献調査団)
1/26	民市)石見銀山学講座2007 第2回
1/29	県市)旧順勝寺文書調査(於:森下家)

石見銀山遺跡調査活動等日誌抄

平成19年11月1日～平成20年3月31日

2/8	県市）第1回石見銀山遺跡調査活用委員会開催（於:あすてらす）
2/13	市）伝建審議会
2/15	市）プロジェクト推進会議
2/16	民市）石見銀山学講座2007 第3回
2/20	実行委員会）第4回石見銀山展実行委員会（於:県庁）
2/27	県）三谷家文書調査（於:三谷家）
2/28	市）石見銀山基金募金委員会の設立
3/2	市）発掘調査現地説明会（於:大森町仙ノ山安原谷）
3/8	民市）石見銀山学講座2007 第4回
3/13・14	市）東北芸術工科大学田中哲雄教授現地指導
3/15・16	県）第3回歴史文献調査研究会（於:石見銀山資料館ほか　文献調査団）
3/22	民市）石見銀山学講座2007 第5回
3/24	市）石見銀山遺跡整備検討委員会
3/27～29	県）熊谷家文書調査（於:大田市中央図書館　文献調査団）
3/28	市）街道にかかる史跡追加指定（文部科学省告示第40号）

ごあいさつ

大田市 教育部 石見銀山課長　小野　康司

この4月に総務部から教育部に所管が変わった石見銀山課に参りました小野と申します。3月までは、建設部事業推進課で山陰道や国・県事業の調整を主に業務を行っていました。

世界遺産登録から1年が経過し、石見銀山に来訪する観光客の急増による住環境の変化に戸惑いは隠せないところですが、受入対策の整備はもとより遺跡や自然環境の保全を図りながら、一方、遺跡の整備も進めなければなりません。

また、10月にフルオープンする石見銀山世界遺産センターには、展示棟と収蔵体験棟も整備します。

今後は、このセンターがユネスコの精神に基づく石見銀山の予習・復習の場としての機能を発揮し、石見銀山遺跡が価値のある世界遺産であることを学習していただきたいと思っています。

何分微力ではありますが、優秀なスタッフと共に一生懸命業務を遂行して参りますので、地元をはじめ関係者の皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

「世界遺産登録推進室」から「世界遺産室」へ

島根県教育庁 世界遺産室長　大矢　敬子

平成20年春の人事異動により世界遺産室長の任につきました。どうかよろしくお願い申し上げます。

県は石見銀山遺跡の世界遺産登録を目指し、平成13年に世界遺産登録推進室を設置し本格的に取り組んでまいりましたが、昨年、ついに悲願の登録を果たし新たなステップに立つことができました。組織を世界遺産室に衣替えして、私は通算4代目の室長となりました。

登録はゴールではなく新たなスタートです。世界に認められた顕著な普遍的価値をより明らかにして未来に引き継いでいくため、先人の努力に敬意を払い、引き続き大田市と一緒になって取り組んでまいります。

当面の大きな課題は、石見銀山世界遺産センターの10月フルオープンです。遺跡と文化的景観を分かりやすく展示して、その価値を一人でも多くの方々に知っていただきたいと思います。そのため、5名の県職員を現地に駐在させてオープンの準備にあたります。

目線は世界に向けて、地域にしっかりと足を踏みしめ、県民の皆さんとともに、着実な保存整備、調査研究や活用に努めてまいります。

世界遺産を認定するのは、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）です。その設立目的は、平和及び安全に貢献することであり、具現化にあたっては基本的な人権・自由の尊重を目指します。世界遺産を継承することは、とりもなおさず世界に開かれた歴史と文化の向上に寄与するものと考えています。

このマークは、世界遺産である石見銀山遺跡を構成する間歩（まぶ）や山、海などの資源をモチーフにし、公式マークとして石見銀山協働会議が作成しました。

IWAMI GINZAN SILVER MINE

石見銀山 WORLD HERITAGE

櫛島のキャンプ場にて

「石見銀山ニュース」13号をお届けします。
銀山は，朝夕めっきり涼しくなりました。

石見銀山遺跡ニュース第13号　2008年9月24日発行　編集発行／島根県・大田市教育委員会／TEL0852-22-5642（島根県教育庁文化財課 世界遺産室）
http://www.pref.shimane.lg.jp/sekaiisan/iwami_ginzan/